



大極殿めざして行列（本文中に関連記事があります）

目次 / contents

ひと・まち・地域 2

- ・市街化調整区域の地区計画「小出石町地区計画」要望書の提出
／石本幸良
- ・箕面市の市街化調整区域の土地利用のあり方がまとまりました
／岡本壮平・絹原一寛
- ・交流施設「まちの駅クロスピアくみやま」がオープン
／山崎博央・三浦健史
- ・最近、淡路島の春トマトが人気！？です
／原田弘之・(株)バード・デザインハウス 竹岡寛文
- ・若狭高浜から奈良・平城京へ御贄を献上～せんとくと赤ふん坊
やのご対面～／原田弘之

きんきょう 9

- ・「昭和初期に開発された桜並木の住宅地を守り続けていくために
～桜と調和したまちづくりに向けた講演会とコンサートが開催さ
れました～」／石川聡史
- ・2年間の館長任務を終えて／森岡武
- ・専門学生と地域を掘り起こし～西区未来わがまち会議／清水紀行
- ・インクルーシブな「働く」をつくる／廣部出
- ・近況一響きあう人と桜と／三輪泰司
- ・嵯峨野山陰線のその後・・複線化工事の完成と消えたカボチャ列車
／山崎裕行
- ・新人紹介／浅田麻記子・依藤光代

メディア・ウォッチ 17

- ・「甲子園ホテル物語—西の帝国ホテルとフランク・ロイド・ライ
ト—」／岡本壮平

まちかど 18

- ・土地に刻まれた記憶を確認する試み／坂井信行



市街化調整区域の地区計画「小出石町地区計画」要望書の提出

京都事務所／石本 幸良

京都市左京区の大原の里の北に位置する集落「小出石」地区において、平成20年10月から市街化調整区域における地区計画策定の取組を進めてきましたが、地区の合意が得られ、3月26日に京都市に都市計画決定の手続きの要望書を提出しました。今回は地区計画策定に至る経緯も含めて報告します。

小出石地区での取組の背景

大原地区は近年少子化が急速に進み、学校の存続、農業や伝統行事の継承者不足など重要な問題に直面しています。大原自治連合会ではNPO法人大原里づくり協会と共同で平成19年度に「若年層定住促進委員会」を設置して、市街化調整区域における開発規制の緩和や若年層の流出等の問題の検討を開始し、滋賀県の集落地区計画導入地区の見学や、地区計画制度の学習会を重ねました。

一方、京都市においては同時期に、「市街化調整区域における地区計画運用基準」の検討を進めていました。市では運用基準案をもとに対象となる市街化調整区域の地区等に説明会を実施することとなり、平成20年1月17日に大原地区を対象に制度説明会を開催しました。その後、自治連合会では委員会を中心に運用基準の検討を行い、1月31日に大原地区としての要望を踏まえ意見書を提出しました。

小出石地区とアルパックの関わり

アルパックではその両者の取組に携わっていることもあり、平成21年度に運用基準の施行が確定した段階において、市都市計画課および京都市景観・まちづくりセンターと協議を行い、京都市で市街化調整区域の地区計画の取組の最初のモデル地区として大原地区で地区計画策定の取組支援を検討することとしました。大原地区には多くの集落がありますが、集落の規模及び住民のまとまり度などを考慮して、小出石地区の委員と協議を行い、小出石地区か

ら地区計画策定の取組を進めたいとの要望を市に提出して頂き、京都市景観・まちづくりセンターの支援が7月に決定しました。アルパックはセンターからまちづくりコーディネーターの委託を受けてアドバイスを開始しました。

小出石地区での取組の概要

小出石地区では集落の会合で委員を選定し、そのメンバーで「小出石町ビジョン検討委員会」を設置して、10月から本格的な検討を開始しました。平成20年度の取組内容はニュースレター No.156号で紹介していますが、「小出石町十二門暮し」と題した集落ビジョンを策定することができました。

平成21年度は「小出石町地区計画検討委員会」と名称を変え、地区計画の具体的な検討を開始しました。委員会は毎月1回のペースで開催して内容の検討を行い、その結果を「小出石まちづくりニュース」にまとめ全戸に配布しました。また、検討の節目においては委員会主催の集落全体の意見交換会を開催して、内容の報告と住民等の質問に答える取組を行い、加えてアンケートを実施して、段階ごとに住民の意向確認を行いました。結果、要望書提出までの約1年半の間に、17回の委員会、4回の意見交換会、アンケート3回、まちづくりニュースを10回発行しました。



意見交換会の様子

小出石町地区計画の概要

地区計画区域の検討

集落は旧道沿いの集落と新田と呼ばれる国道沿いの集落の2つに別れており、地元としてはできるだけ区域を広げたいとの意見が多く出されました。しかし、地区類型で「既存集落整備型」に位置づけられ、「既存の宅地面積の合計の1.5倍は超えない区域の設定」と目安があり、この解釈について意見交換を重ねました。協議の結果、大量の新規住宅の需要が期待できないこと、地元でも既存集落の落ち着いた雰囲気も同時に守りたいとの思いもあり、結果的には旧道を中心に、集落内の住宅回りの農地や集落に連続する農地を取り込み、市の計らいもあり、目安をやや超える区域設定ができました。

地区整備計画の基準、ルールへの検討

建物用途は運用基準を基本に地区内で想定される用途の検討を行い、用途基準を設定しました。建物のルールについては自由な建築活動を求める意見も多く出されましたが、近隣の市街化区域の基準（八瀬地区）との整合性、大原地区の集落は風致地区に指定されていることの説明を行い、第一種低層住居専用地域に準ずるルールを設定としました。

建物のデザイン基準については大原地区の風致基準を基本とした「小出石建築作法」と名付けたデザイン基準で了解を得ました。なお、風致基準における壁面の位置の制限については街道筋の集落で確保することが難しい敷地もあり、規定しませんでした。その代わりに、門や塀、フェンス等の工作物に関する基準は地区の独自性を盛り込みました。

大原小出石地区地区計画素案

地区計画素案の「区域の整備・開発及び保全の方針」については、「小出石町十二門暮し」を基本に表現しました。市街化調整

区域の地区計画として「小出石地区地区計画」は結果的に「建築物等の形態及び色彩その他の意匠の制限」を盛り込んだ市内初の地区計画になる予定です。

小出石地区での取組を振り返って

小出石地区でわずか1年半で地区計画素案を策定することができたのは以下のような要因からです。

- ①大原地区の少子化対策で、市街化調整区域の制度に関する学習会を実施していたこと。
- ②約50件ほどの小さな集落で地域のつながりも深く、意思疎通が容易であったこと。
- ③アドバイザーと地域の関係は平成11年からと長く、人間関係、信頼関係ができていたこと

平成21年度に京都市で一時アドバイザーの変更の動きがありましたが、地元からの強い要望で、私が継続してアドバイスすることができました。

市街化調整区域の地区計画制度導入の取組は専門的、法的な知識を必要とし、取組の積み重ねは相当な時間と技術を要します。地元だけでは策定は難しく、今後も市やセンターに対して、地元から地区計画策定の取組に対する支援の要請が想定され、アドバイザーを派遣する制度づくりが望まれます。



小出石建築作法にもとづくデザインイメージ図



ひと・まち・地域

箕面市の市街化調整区域の土地利用のあり方がまとまりました 大阪事務所／岡本壮平・絹原一寛

市街化調整区域のあり方を見直す

大阪府箕面市では、平成19年度から市街化調整区域における土地利用のあり方を検討し、平成21年7月に取りまとめられました。

箕面市のような都市近郊部に位置する住宅地が主体のまちでは、これまで市街地に隣接する市街化調整区域は主に「市街地の予備地」を担っており、随時編入され市街地整備が進められてきました。しかし、人口減少社会に突入、環境や農業等への関心の高まりから、人口の大幅増が見込めない中で、都市計画法の改正への対応を契機としながら、それにとどまらず時代の要請や土地所有者・市民の意向も踏まえて市街化調整区域の役割を見直すべきではないか、という問題意識から検討がスタートしたわけです。

詳細は市のホームページを見て頂くとして、検討をお手伝いした我々の目線で全国的な課題にも通じるポイントをご紹介します。

保全型へ舵を切る

箕面市では、北摂山系の山なみはこれまで通り保全しつつ、それ以外の市街化調整区域については新たに、「多面的機能を有する空間の継承と機能維持のため、自然環境や美しい景観などの保全をめざすとともに、市街化の抑制を原則とする」方針を定めました。その一方で、今後起こり得る計画的な都市的土地利用も勘案し、地区計画等を用いた協議調整の仕組みを用意することとしました。

都市近郊部の市街化調整区域が抱える現状

検討の過程で、土地所有者にアンケートを実施、営農の現状や所有する土地を今後どうするか意向などをうかがいました。その結果「当面は営農を継続したいが、20～30年後はどうなるかわからない」という回答が多く寄せられました。営農環境の変化や後継者の不足等の問題から、将来は農地を手放さざるを得ないのでは、と不安を感じている状況が明らかになりました。

その一方、市民にアンケート調査を実施したところ、市街化調整区域の持つ身近に自然を感じられる環境や、新鮮な食料を生産・供給する食料生産の場としての評価は高く、その環境の維持に市民も参画していくべきだ、との回答が多く寄せられました。

箕面市に限らず、都市近郊部の市街化調整区域はこうした板挟みの状況に置かれていると思われます。

都市計画と農業施策のコンビネーション・農あるまちづくり

その課題解決に向けて、都市計画は開発の抑制・コントロールが主であり、非常に限定的なツールと言わざるを得ません。そこで市では、農業施策を積極的に推し進めることと、開発等に対して営農環境への配慮等を求める協議調整を図ること、いわば農業施策と都市計画施策の「両輪」で取り組む姿勢を打ち出し、さらに、地元住民発意の地域の将来像づくりをこの両輪でバックアップするという「農あるまちづくり」を推進していくこととしました。

このほか、府下の一般的な条件よりも厳しい内容とした地区計画ガイドラインを策定し、見識ある開発をコントロールする協議調整の仕組みを構築しました。

昨年度から、市の農とみどり政策課とまちづくり政策課が同じみどりまちづくり部に配置されており、市民が農家をお手伝いする「農業サポーター制度」等のユニークな取り組みを地元の方々と協働で進められています。

地域の創意工夫で制度の限界を補う

市街化区域か市街化調整区域かの線引きだけでは地域の環境を良くすることができない状況下では、箕面市の取り組みのような地域の創意工夫が求められていると感じました。

我々もお手伝いする中で非常に学ぶべきところが多い仕事でした。都市計画だけでは解決できない現場の状況に対して、どのような解が考えられるのか。今後とも研究を進めていきたいと考えています。



市街地に隣接する市街化調整区域（萱野）

交流施設「まちの駅クロスピアくみやま」がオープン
 京都事務所／山崎博央・三浦健史

京都府久御山町に「まちの駅クロスピアくみやま」が完成し、去る4月25日にオープン記念式典が開かれました。初日から多くの人々が訪れ、町内外の関心の高さが窺えました。私たちは施設の基本構想から設計、監理までお手伝いさせていただきました。

鉄道駅の無い久御山町では、バスは唯一の公共交通機関となっています。このバス交通を活かしたまちづくりを推進するため、バスターミナルやまちの駅の整備を盛り込んだ都市再生整備計画を策定し、まちづくり交付金をうけて平成17年より新市街地整備事業に着手しました。

「まちの駅クロスピアくみやま」は、この事業のなかでも目玉にあたるもので、バス待合のほか、加工室、販売コーナー、展示ロビー、産業情報ロビー、交流室などからなる施設です。

加工販売では、町内産農産物などを活かした味噌・漬物、ジャム、パン、クッキーなどの加工生産、加工室で作った食品や新鮮野菜、また商工製品などの販売を行っています。

展示ロビー、産業情報ロビーでは、町内事業所の製品等の展示を見ることができます。久御山町には多くの企業が集まっており、ここでは自慢の技術の一端に触れることができます。例えば、木の樹肌を精密に再現した紙や、精密な金属のコマなどが展示されています。さらに、広いロビーが用意されており、出品者や見学者同士の交流が図



全景

れるようになっていきます。

施設のオープンに合わせ、コミュニティバスの路線も拡大されました。バスターミナルと一体として整備されたため、バス利用客の施設利用も期待できます。また久御山町は東西の京滋バイパス、南北の阪神高速京都線、第二京阪道路の結節点にあり、自動車交通の要所となっています。ほぼ同時期に第二京阪道路も開通し、関西空港など大阪南部へのアクセスも格段によくなりました。今後は長距離バスや空港バスの発着点としての役割も期待されます。

私は、ジャスコ久御山店には割合良く行くのですが、加工販売や展示ロビーがある「クロスピアくみやま」ができたことで、個人的にも新たな楽しみが増えました。コンクリート打ち放しが目印です。皆さんも近くにお越しのときはぜひ立ち寄ってみてください。



山田府知事も参加したテープカット



多くの人でにぎわう加工販売。おいしいパンもいっぱい並んでいました。



展示ロビー



最近、淡路島の
春トマトが人気! ですか
大阪事務所 / 原田弘之
(株)バード・デザインハウス / 竹岡寛文

「トマトってかわいい名前だね・・・」最近のスーパーマーケットの野菜コーナーでは、「かわいい」だけではなく、戦略商品の1つとして多くの種類のトマトが並んでいます。従来のトマトやミニトマトだけではなく、中サイズのみディトマトや糖度の高いフルーツトマト、黄色いトマトなど、価格もお買い得系から1個200～300円するものまで。ネット販売の世界では1箱1万円のギフト商品まで。

日本のトマトの消費量はイタリアなどには遠く及びませんが、生食は日本の食べ方の特徴の1つで、トマトの赤色に含まれるリコピンが身体によいという話も後押しして、静かなトマトブームとなっているようです。

淡路島の農産物といえば、「玉ねぎ」「淡路牛」「花」ぐらいはイメージが浮かぶでしょうが、今、「トマト」を名物にしようとがんばっています。ここでは、平成21年度に「JA 淡路日の出」からの委託で、デザイン事務所の(株)バード・デザインハウスと一緒に取り組んだトマトのブランド化について報告します。

淡路日の出農業協同組合のホームページ
<http://www.ja-awajihinode.com/haruru/index.html>

淡路島のトマトは、味の濃い、エコな熟成型

ブランド化の対象としたトマトは、「瑞健」という品種で、果肉が詰まり、糖度と酸味のバランスがほどよく、昔なつかしい味のするトマトです。桃太郎より味が濃く、フルーツトマトより甘くはないけれど、皮が薄く歯触りが滑らかです。「味の濃いフルーツっぽい野菜」という感じです。淡路市尾崎(旧一宮町)で1984年頃に導入され、30年近く工夫を重ね栽培技術を高めてきました。9月頃作付けし、無加温のハウスの中で播磨灘の温暖な日差しを受けながら育て、2月後半から出荷が始まり、4月中旬までの約1ヶ月半くらいが旬となります。他のトマトは加温ハウスで、栽培期間の短いものが多い中で、「瑞健」は手間と時間はかかるけれど、「味の濃い、エコな熟成トマト」と言えます。

手間がかかるトマトなので、栽培農家が減っており、現在17戸で生産されています。そして現状では市場出荷なので、必ずしも「瑞健」のよさが反映された取引価格となっているわけではありません。

そこで今回ブランド化を進めることになりました。最終目標は、トマト農家の後継者獲得や増員ですが、まずは、「瑞健」の認知度とよさをアピールすることからスタートしました。

1 トマト通をうならせる新しい味わいです。
実熟度は、1年を通じたやさしい糖度が特徴です。「はるる」は、その温暖な気候の中で育まれる春トマトで、2月中旬から4月にかけて食べごろを迎えます。品種は、今や珍らしいフルーツの「瑞健」です。

2 肉厚で、ゼリー部分は少なめ。食べごたえアリ。
5年連続で甘いだけでなく、甘みと酸味のバランスが抜群の美味しいトマトです。特に3月中旬以降は、糖度が年々高くなる傾向があり、実った果実が可愛くハート型になっているのが特徴です。

3 愛情たっぷり、大切に育てた「箱入り娘」です。
皮が薄く、なめらかな皮の厚さが特徴の「はるる」は、その特徴を活かすために播磨灘にほどむらさきと選んで育てていますが、その分、生産・出荷段階から丁寧に大切に育てられて愛情たっぷり注いで「地産地消型トマト」です。

4 まんべんなく太陽を浴びよう1つずつ手で回して作っています。
実熟度の高い瑞健は、その味と香り、甘みと酸味のバランスが抜群です。さらに、糖度や酸味が甘みとアップしてますます美味しくなっています。

5 無加温で、育てています。地球にやさしい栽培です。
ハウス栽培ですが、播磨灘の温暖な気候で育まれるためです。肥料も必要とありません。特に丁寧に育てられる瑞健は必ずしも1つと比べると10%以上、果実量が他産品よりも多いと推定されています。



淡路島春トマト「はるる」の特徴

淡路島春トマト「はるる」のプレミアム商品



アグリフード EXPO の風景

淡路島春トマト「はるる」誕生

「瑞健」のブランド化にあたって、トマト農家や JA、県、市などをメンバーとする「チームトマト」を結成し、現状の市場分析、流通把握、ライバルとなるトマトの試食などを行い、「瑞健」の長所と短所を洗い出した上で、戦略を立てました。その結果、「瑞健」という品種名を尊重しつつ、淡路島の春のイメージや気分を商品価値に加えて新たに発信するために「はるる」というネーミングを打ち出しました。そして、商品全体の評価を高めるために、ギフト用などを目的とし、糖度が高いものを選びすぐった「プレミアム商品」を開発することにしました。写真のような化粧箱に11個入って試験販売価格を1,800円としました。

アグリフード EXPO へ出展

こうしたブランド化の方向性を試してみるために、2月16～17日に大阪で開催された「アグリフード EXPO」に出展しました。約200のブースが出展し、1万人以上が来場する事業者向けの大きな展示・商談会です。JA 淡路日の出も、職員のみならず、トマト農家も含めて、赤と緑のトマトジャケットに身を包み、統一デザインで演出されたブースで、トマトの PR、試食、「プレミアム商品」の販売を行

いました。試食や展示は大好評。交換した名刺は約150件にのぼるなど、PRの成果は十分ありました。トマト農家も、直接、バイヤーの方などと接触して評価を聞き、実感を持った様子。生産者の研修としても非常によい機会となりました。

「いかりスーパー」で販売される！

いくつかの大手スーパーにもヒアリングを行いましたが、一定以上の数量がそろわないと取引は難しい様子。そんな中、アグリフード EXPO で名刺交換した、いわゆる高級系の「いかりスーパー」から具体的な商談の依頼があり、試験的に販売することになりました。これまで、基本的には市場出荷による取引であったため直接の取引のためには、少し工夫が必要でしたが、何とか商談成立です。現在は、来年春のトマトシーズンに向けて、次のステップの仕込み中です。

日本各地には、こうした地域に埋もれた良い物、良い産物がたくさんあるはずです。それらを発掘して、新しい命を吹き込み、社会に顕在化させることにより、地域の活性化とともに生活者の笑顔や健康などに役立つようにする。こうした取組として、「ブランド化」を進める余地はまだまだありそうだと感じました。



ホームページのトップ画面



17戸のトマト部会の方々 トマト栽培のハウス内。正面は30代の若手農家





若狭高浜から奈良・平城京へ
御贄を献上
せんとかんと赤ふん坊やのご対面
大阪事務所／原田弘之

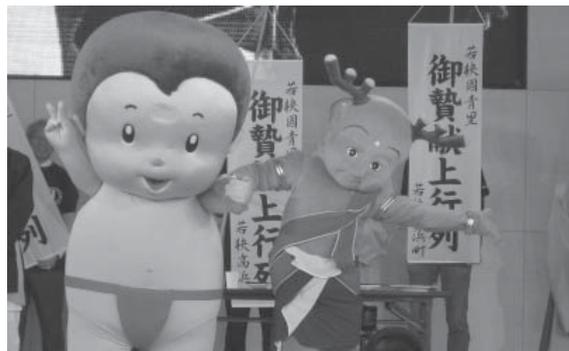
今年のご存じの通り、平城遷都1300年祭の年で、GWを迎え、やっと奈良でも盛り上がりつつあります（筆者は奈良在住）。これに関連してさまざまな行事が目白押しですが、福井県の若狭高浜から「すし」を献上する行事が開催されました。

奈良と若狭高浜との関わり

奈良と若狭と言えば、東大寺・二月堂のお水取りと若狭小浜のお水送りというつながりがありますが、食の分野では、御食国であることから、若狭高浜と平城京のつながりがあります。平城京跡から発掘された荷札木簡に、当時の高浜から都である奈良に「多比鮓（鯛すし）」などを「御贄（税）」として献上したことが記されていたのです。その荷札木簡が最古であることから、「すし発祥の地」として高浜町では鮓のブランド化を進めており、アルパックは、このブランド化を支援しています。

当時の「すし」の復活を

平城遷都1300年祭に若狭高浜から御贄献上行列を復活させ、祭りをお祝いするとともに、高浜ブランドを発信することになりました。当時献上していた「多比鮓」は、「なれずし」のようなもので、本当は半年から一年以上かかるのですが、今回は、郷土料理研究家の奥村彪生氏に監修いただき、米麴などを使って2ヶ月ほどで再現しました。想像より、美味しくでき、これから特産品となる可能性もあるようです。そして、行列はそれを届けるために、若狭高浜から、おおい町、南丹市美山、京都市右京区京北、京都市、木津川市、奈良と、130kmの道のりを4日間かけて踏破するのです。さすがに大勢の行列は難しいので、4人が代表選手となりました。行程や状況は、web上に御贄献上行列旅ブログに掲載されています。



せんとかん(右)と赤ふん坊や(左)

御贄献上式

平成22年4月24日平城遷都1300年祭のシンボルである大極殿がオープンしました。その日の午前10時、前日奈良に到着した4人の御贄献上行列の踏破者と、当日かけつけた高浜町民が朱雀門で合流し、100人以上となって大極殿をめざして歩き始めました。多くの来訪者が見守る中、現代版の御贄献上行列の再現です。

献上式では、奈良市長などの歓待を受け、御贄献上の報告に続いて、「多比鮓」の試食も行われ、「おいしい」の一言。平城遷都1300年祭の公式マスコットキャラクターの「せんとかん」も登場し、高浜町からは「赤ふん坊や」もかけつけ、お互いの親交も深めました。

なお、会場近くのイトーヨーカ堂奈良店では、これに合わせ、「若狭高浜」直送市が6日間開催され、「若狭たかま鮓」をはじめ、海の幸、山の幸などが販売されました。

全国各地で活性化の取組が行われています。こうした、「食」「歴史文化」「特定の都市との交流」「個別の店や商店街との連携」などが、地域づくりの最近のキーワードかなと思っています。



現代版の多比鮓（鯛すし）。米麴に漬け込む



御贄である「多比鮓」



御贄献上式。中央が奈良市長



「昭和初期に開発された桜並木の住宅地を守り続けていくために～桜と調和したまちづくりに向けた講演会とコンサートが開催されました～」

京都事務所／石川聡史

日本に春の到来を告げる桜の花。今年、関西では気温が低い日が続き、長い期間開花していたこともあって、公園などでお花見を楽しんだ方も多かったのではないのでしょうか。

さて、桜は、「日本人が好きな木」と「日本人が好きな花」の両方で第1位に選ばれる（NHK放送文化研究所 2007年）ほど日本人に親しまれている木・花です。しかし、「桜切る馬鹿梅切らぬ馬鹿」と言われるように、剪定するとウイルスに感染して枯れてしまうし、大気汚染にも弱く、毛虫が付きやすいという問題もあって、植樹にふさわしい場所は限られているのが現状です。公園や広い庭園などに植



えるのはいいですが、街路樹としてはあまり向いているとは言えません。

しかし、その桜を住宅地の街路樹として何十年も守り続けてきたまちが京都にあります。

京都市の西隣に位置する向日市。かつて長岡京が置かれた人口約5.5万人の住宅都市ですが、その向日市の阪急西向日駅周辺は、昭和初期に現阪急電鉄が開発した低層戸建住宅が中心の住宅地で、イギリスの田園都市に倣った、静閑な街並みが形成されています。

この西向日駅周辺が、桜の名所で、公園や広場だけでなく、街路樹としても桜が使われており、地区の道路全てが桜の街路となっているのが大きな特徴です。本数は、全部で約270本。桜の季節には、街中が桜で埋め尽くされる感じがします。

この長く受け継がれてきた桜を今後も守りながら、桜と調和したまちづくりを考えていくため、この春、地元住民が「西向日の桜並木と景観を保存する会」を結成しました。

活動のスタートイベントとして、この4月4日にまちづくりに関する講演会と地元の演奏家によるコンサートを開催。講演会では、京都府景観アドバイザーを務める弊社の石本幸良が、地元住民らを前に、桜並木と調和した街並みの「たたずまい」を



守っていくことの大切さなどについて講演しました。

講演終了後は、満開の桜に囲まれた噴水公園に場所を移し、地元演奏家によるコンサートを楽しみました。この日は晴天で桜も見事に満開。コンサートでは、子どもの飛び入り参加もあり、大変盛り上がりました。

これらのイベントが、桜並木のまちづくりに関心を向けてもらう大きなきっかけとなったことと思います。

まちづくりに限ったことではありませんが、いくら良いものがあったとしても、それに慣れきってしまうと、当然あるものと思ってしまう、その大切さにはあまり気づかなくなってしまうものです。本来、街路樹としてはあまり向かない桜の木ですが、地元と行政の方々の努力によって今日まで大切に守られてきました。この素晴らしい街並みが、これからも長く受け継がれていくことを期待します。



2年間の館長任務を終えて

大阪事務所／森岡武

ニュースレター 2009 年迎春号『篠山チルドレンズミュージアムの館長しています。』という近況報告で、「～公共施設のリノベーションモデルをもって今年（2009年）の9月議会を迎えられるようにがんばります。」と締め括ってから早1年と5ヶ月。

結果は、平成21年8月～11月に実施された『篠山チルドレンズミュージアム施設運営企画提案』募集において、指定管理料ゼロ円の提案者に施設管理を譲ることになりました。「ゼロ円」だけに目をやるとインパクトが強いですが、この結果の是非は、今後の取り組み実績と経過を見守るしかありません。取り敢えず、存続の危機にあったミュージアムは残ることになりました。

「経費のかからない運営方法」は「ゼロ円」だった？

篠山市は平成の市町村合併の

先駆として10年を迎えます。当初目指した人口6万人は現在4.5万人と伸び悩み、財政再生団体に陥りかねない状況です。第二の夕張市回避を合言葉に、再生の全国モデルを目指して、具体的方策を124項目にまとめ、人件費削減と公共サービスの見直しを目玉に市民に痛みが伴う聖域なき改革に取り組んでいます。

このような状況下で真っ先に文化教育施設にメスが入ることは全国的によくある話で、長期的な波及効果を期待して単年度に予算化できない状況であることも仕方のないことかも知れません。平成20年11月に取りまとめられた『篠山再生計画（行財政改革編）』には、「平成20年度から2ヵ年間、指定管理者制度を導入し、1年間3,200万円の運営費としました。引き続き、経費のかからない運営方法を検討し、それが見出せない場合は、平成22年度以降は休館とします。」と記述されました。この「経

費のかからない運営方法」という難解な日本語に常に悩まされ、この意味は篠山市の歳出（支出）がゼロ円だと聞かされたのは平成21年9月7日に実施された『篠山チルドレンズミュージアム施設運営企画提案』第1回審査委員会のプレゼンテーションの席でした。

施設運営企画提案募集

施設運営企画提案の募集要項は、市として困惑の色が見え隠れした内容でした。施設機能は既存のミュージアムにこだわることなく、地域の福祉に寄与するものであればよいという内容であり、また、予算提示は「経費のかからない運営方法」とあるだけで具体的な数字の提示はありませんでした。

我々の提案のポイントは終始一貫、「ミュージアムを社会（地域）的に機能させること。市場経済性や効率だけで評価され切り捨てられようとしている大切なものを丁寧に拾い集め、次世代に向けて再構築し残していくこと。」でした。

もちろんこの取り組みを持続させるには儲けなければなりません。3,200万円の指定管理料を半値の1,600万円に、さらに5年後には8掛けの1,000万円まで削減可能という提案でした。指定管理料の大幅削減の方法は、収益構造の改善にあり、通信制高校（サイバーハイスクール）のスクーリングを誘致し、ミュージアムの





ソフトコンテンツを商品として企業に買ってもらう提案でした。結果は冒頭の通り、ゼロ円提案の会社に施設管理を譲ることになりました。

予期せぬご褒美

つらいことばかりでもなく、数多くの新聞や雑誌等のメディアに取り上げられ、また講演依頼や視察、事業連携やまちづくりの相談に來られたりとして着実に関心をもっていただける応援団が増えていました。

そういうなか、平成21年1月30日には、篠山市は「文化芸術創造都市」として文化庁長官表彰を受けました。文化芸術の力により、市民参加で地域の活性化に取り組む、特に顕著な功績をあげている市区町村に贈られるもので、全国8都市（横浜市、金沢市、近江八幡市、沖縄市、札幌市、東京都豊島区、萩市）の仲間入りをしました。篠山チルドレンミュージアムもユニークな取り組み実

績が評価され、実名で表彰文に記述されています。

さらに同年3月、朝日放送のドキュメンタリー番組「テレメンタリー」で「ちるみゅーの逆襲」という特番が組まれました。深夜放映にも関わらずリアルタイムで見てくれた方々が多かったことに驚かされました。

指定管理者制度について

指定管理者制度の目標は、住民サービスの質の向上であり、施設設置者が施設を最大限に機能させ、活用しようという前向きな意思が働くことが大前提です。この2年間、終始気になったのは、指定管理料を「市が負担する額」と表現していたことです。施設存続の議論が、社会的意義とかミッションとか社会的機能、市民サービスとしての有益性ではなく、「負担の軽減」に向かっていたのではないかと指定管理者制度はお荷物施設の延命システムではありません。施設設置者はあくまでも「管理」に際して民間等のノウハウを活用するものであって、住民サービスの質の向上を目指す「運営」の主体はあくまでも施設設置者でなければなりません。

篠山チルドレンミュージアムの取り組みは、「まちづくり」そのものでした

当ミュージアム名誉館長の河合隼雄先生の言葉に次のようなものがあります。「・・・関係を持ちながら待つというのは大変

です。『ああせい、こうせい』と喋ってるほうがよっぽど楽なんです。だけど、そうしているうちに、何かの拍子にうまいこといき出すんですね。」

これをヒントに、私が目指したものは、関係性を再構築することでした。関係者が「主体的に関わる場の創出」です。スタッフはもちろん、地元住民やボランティアや来館者など、それぞれが主体的に関わることで“ともに学ぶ場”を創り出すことでした。地域に根を張るミュージアム。地域に芽を出すミュージアム。地域に花を咲かせるミュージアム。実をつけ、種をつくり、その種がまた根を張る。

“まちづくり”は、過去の消費ではなく、現在の浪費でもなく、未来への投資であって欲しい。“まちづくり”はまちで暮らす人々の日常の営みそのものです。美術館や博物館のみならず公共施設全般が人の営みとなりますように願ってやみません。





専門学生と地域を掘り起こし～西区未来わがまち会議

大阪事務所／清水紀行

西区未来わがまち会議では、「わがまちビジョン」策定後、様々な地域活動に取り組んできました。しかし、メンバーの固定化やメンバー自身が多忙すぎるといった理由から、最近ではなかなか積極的な活動が出来ませんでした。

そんな時、座長の「地元の運動会で協力して貰っている専門学校生に協力してもらわれへんかな？」という何気ない一言がきっかけで、「若者の視点から西区の魅力を探り出す」情報紙の作成が始まりました。

鉄道駅を中心に地域を斬る！

今回、協力してくれたのは「ホスピタリティツーリズム専門学校大阪」の鉄道サービス科の学生です。

西区には、大阪市営地下鉄（中央線、四ツ橋線、千日前線、長堀鶴見緑地線）、阪神なんば線が通っており、鉄道サービス科の学生にはご機嫌なフィールドでした。そこで、連合町会と地下鉄駅を起点に5つのエリア（①西



わがまち会議メンバーと共同作業

船場・江戸堀・靱②明治・広教・西六③堀江・高台・日吉④千代崎・本田・九条東⑤九条南・九条北）に分け、未来わがまち会議メンバーと学生がペアで、地域の魅力掘り起こしに取り組みました。

まちに暮らす人々の顔が見えるような情報誌づくり

取材先は、未来わがまち会議メンバーの地域情報の事前レクを踏まえ、学生が興味を持ったネタを中心に決めました。

そして、学生自ら地域に足を運び、地域で活動する人や暮らしている人と直接対話しながら取材をすることで、まちに住む人々の顔が見えるような情報誌づくりを意識しました。

また、その取材活動を通じて、地域の人々を巻き込んだまちづくりのきっかけになればという思いもありました。

地域の皆さんに感謝を込めて、公開発表会を開催

10月～1月までの4ヶ月間という限られた時間でしたが、なんとか各班とも完成にこぎつけ、2月には公開発表会を開催しました。

発表会には、取材に協力頂い



発表の様子



住民と専門学校生が協力

た地域住民の方々をはじめ、西区長や新聞社など、平日の昼間にも関わらず50名程の方々が参加してくれました。

大勢の前での発表に、緊張の面持ちの学生達でしたが、参加者の方々からの高評価に満面の笑顔を見せていました。

区長からは「今後の西区のまちづくりの重要なツールとして活用したい」というお言葉を頂き、各地域1万部（計5万部）の印刷もその場で確約して頂きました。

最後に

平成21年度は、「西区の魅力情報紙」という大きな成果をとりまとめた未来わがまち会議ですが、実はその成果と同時に幕を閉じることになりました。

その理由は、前述したようにメンバーの固定化、多忙さなどが挙げられますが、一番大きかったのは「ビジョン策定後5年近

くが経過し、一定の役割を終えたのではないか」という意見が多数を占めた点にあります。

西区のわがまち会議の特徴は「地域の枠に捉われない」「予めミッションを設定しない」という点にあり、メンバーの話し合いの中でアイデアを出し、取組目標を設定するという“新しい形の交流の場”にあったと思います。今回で、未来わがまち会議という場はなくなりましたが、メンバーの皆さんは西区に住み続けます。そして、地域をより良くしていきたいという思いが変わることもないでしょう。

今後は、わがまち会議での経験を活かし、連合町会における地域活動のみならず、住んでいる地域の枠を超えた住民主体の活動展開を期待したいと思います。



インクルーシブな「働く」をつくる

京都市事務所／廣部出

障害福祉分野の業務にあたっていますと、障害のある人の就労に係る社会の現況に不自然さを感じます。

「障害者就労」に関しては、「障

害のある人の社会参加」を促進する立場から「障害者雇用対策」と「障害者職業能力開発行政」の施策体系だけがあります。前者は労働環境・条件面の整備と雇用の拡大策、後者は「仕事」に足る「能力」を身につけるための支援策です。いずれも、もちろん大切ではあるのですが……。

ここにある不自然のひとつは前提となっている「雇用」自体です。現実として今ある「雇用」は、「障害のない人に合わせた職場」と「障害のある人」のチューニングということになりますから、不調に終わる事例は少なくないでしょう。もうひとつは「今ある能力を活かす」視点が「開発」偏重で、それ自体が「目的化しがち」であること。「能力をどう活かすか」が先にあるということをお忘れすると本末転倒となってしまいます。

煎じ詰めれば、「障害者就労」に関して「できない」を「できる」に向かわせようとする“上から目線の力”が強すぎるように思います。その前に、まず「できる」を紡いで「社会」との関係を取り結ぶ仕組みがあってもいい。

「万人のための職場」で、「一人ひとりの能力を活かして」コーディネートし、競争力のある「社会品質」のアウトプットを生み出して、適切な対価を得ることができたらどうでしょう。現行の

制度の就労継続支援 A 型事業所 ※1 などと似ているようですが、ノーマルでインクルーシブな「職場」や「働き方」がある地域社会を構想することとは、本質的に異なります。一般就労と福祉的就労の大きな断層をつなぐ仕組みは、当事者が主体者として社会的な活動を行うものでなくてはならないと思うのです。

この趣旨で、ソーシャル・ファーム ※2 等を含めた社会システムの展望を試み、去る 3 月 24 日に座談会を開催しました。手弁当にも拘らず、行政、府・市・区の各社会福祉協議会から、また、精神・身体障害、高齢福祉の福祉施設、起業に係る NPO 等から 20 名近くの方にご出席を頂きました。この、係る内容への関心の高さや広がり共有した座談会を第 0 回として、有志による“部”を（勝手に）立ち上げまして、ちょうどこのニューズレターの発行時期の 5 月 25 日に第 1 回の“部活”となる研究会を行う運びです。今後とも一緒に学びながら、微速前進で参ります。ご関心ある方がおいででしたら、ご一報ください。

※1：雇用契約に基づき、利用者が働きながら一般就労も目指す事業所。最低賃金を保障する。

※2：社会企業の一つで、障がいのある人など労働市場で不利な立場にある人に仕事を生み出す、または、支援付き雇用の機会を提供することに焦点をおいたビジネス。

近況一響きあう人と桜と

取締役相談役／三輪泰司
(NPO 平安京・代表理事)

今年の桜は、京都でも3月23日に開花しましたが、寒気が戻ってストップ。その分、花持ちしたおかげで例年より長く、お花見で賑わいました。

その名は、^{かたちもち}容保桜

まず、京都府庁旧本館利活用応援ネットの報告です。

3月12日、中庭の山桜の命名式が行われました。この山桜がオオシマザクラの特徴も持つ新種であることを発見したのは、桜守・佐野藤右衛門氏。一昨年春のことです。

ソメイヨシノは人工的につくられて固定種になっていますが、山桜は自然交配で突然変異が現われるのだそうです。

京都府庁は京都守護職上屋敷跡。最後の会津藩主・松平容保が守護職を勤めた所です。そこでその名には、容保公のお名を頂戴したいと京都会津会を通じて14代当主・松平保久氏のご了承を頂き「容保桜 かたちもちざくら」と桜守が命名されました。

このニュースは福島民友新聞でも報道され、命名式には佐藤雄平福島県知事、菅家一郎会津若松市長のメッセージが寄せられ、京都会津会の岸弘幹事長はじめ、京都外国語大学との交流で訪れていた会津大大学院生、京都新



容保桜・佐野藤右衛門氏画

撰組同好会の局長さんらも駆けつけ、山田啓二知事、佐野藤右衛門氏とともに銘板除幕式が行なわれました。

響きあう ECHO

さて、前号で予告しました、京都府庁旧本館、春の一般公開・観桜会は、ECHO TOUR 2010 と銘打って3月23日から4月4日まで、満開の桜がお出迎え。

昨年春の13,200人を上回り15,900人で新記録でした。

応援ネットは初めてグッズをつくりました。徹底して桜にこだわり、5枚セットの写真ポストカード、袋のデザインも桜色。お値段も手ごろに300円。おかげで売れ行き好調です。利益は「文化財を守り伝える京都府基金」に寄付し、旧議場復元に備えます。

春はエンターテイメントをメインにアート。中庭の空間をフルに活かしての今紹子+倚羅座のアヴァンギャルド舞踊、重厚かつ洗練された正庁での小松正史のピアノ。旧本館を飾る9つのアート展示などをプロデュースした ANEWAL Gallery と STUDIO SOARING BIRDS の若い諸君に感謝。



命名銘板除幕式

22の野外彫刻は京都彫刻家協会の第1回春の府庁旧本館展で、さすがに庭園と建築を読み込み、元からそこにあったようでした。

ボランティアスピリット

府主催では越前琵琶、カンントリー&フォークのライブ、学生コーラス、NPO オペラプラザ京都の皆さん、源氏物語朗読劇、日本舞踊パントマイムなど、まさに府民に開かれた府庁を楽しみました。

旧本館も少しずつ整備され、NPO 都草のメンバーによるガイドも熱が入ってきました。

火花は桜守の直感と検証のプロ魂。燃え上がらせたのは皆のパッション。府職員との「協働」は、特に広報で威力を発揮しました。会計から保険までキッチンと、応援ネットの定例会議はこのような評価と反省をし、抹茶・コーヒーサービスで働いて得た収益で、持ち寄り手作り打ち上げもしました。

(実は、16代佐野藤右衛門は、縁戚で、私の従兄になります)

桃山団地の桜

3月14日の京都新聞に「サヨナラ桃山団地」と載っていました。

新年のご挨拶で触れましたように、ここはノーベル賞の益川敏英先生、そして私も住んでいたところ。桜並木が見事な隠れた名所です。若木の植え替えもなされず、老木になっていますが、今年も健気に咲きました。

これも少々触れていましたが、「山科川・丹後橋周辺整備懇談会」が始まり、現地踏査をしました。団地はUR都市再生機構、河川は淀川河川事務所と所管が違い、それぞれの範囲内でしか仕事はできませんが、空間と住民の生活行動は繋がっています。現に団地の西、桃山与五郎町の約千人の通勤・通学者は団地を通って駅や商店街へ通っています。安全な“緑道”の役割を果たしています。

現地踏査では、山科川の京都府管理区域まで歩きました。この堤防天端道は、京阪六地藏駅から、近鉄MOMOを通過して住宅地へ、桜並木のある心地よいフットパスになっています。

地域住民は国交省と京都府の管轄違いなど知りません。

この地域は宇治市とも繋がっています。京都市との境にある木幡池(堂ノ川)は、府の管理で、一部民有であった池を府が買収したそうです。宇治市側は「すみれ会」という住民組織も加わって美しく管理しています。

花や桜並木とともに、人々の暮らしを繋ぎ、そして国民の資

産を活かすのは住民でもある「懇談会」の責任であると思います。

嵯峨野山陰線のその後・・・ 複線化工事の完成と消えた カボチャ列車

京都事務所／山崎裕行

ニュースレター156号の続編となります。

話の舞台は、嵯峨野線です。山陰本線の中でも京都から園部間を指すこの線では、昭和54年に京都駅～園部駅間の複線化および京都駅～綾部駅間の電化が決定されて以降、京都市内の一部区間の高架化工事も併せて、段階的に複線化工事が進められてきました。そして、30年余りが経過した平成21年3月31日について完成したのです。

この完成により、①ラッシュ時の快速の増発、②日中の運転間隔の均等化がなされ、利便性は非常に高まりました。これは、やはり嬉しいことなのですが、その影で、姿を消してしまったものがあります。

そう、それこそがカボチャ電車こと113系直流近郊型電車です。今回の改正に伴い、京都から園部間の電車は、全て221系又は223系に置き換えられたのです。

ちなみに221系というのは、京都から大阪間で言うと主に快速電車として走っている車両、223系というのは同区間を主に新快速電車として走っている車両です。

ニュースレター156号でも触れましたが、この113系というのは誕生してから既に30年以上が経過しています。そのため、全国的にも、徐々に見ることができなくなっている車両です。

嵯峨野線では、電化されたのが平成2年だったと思うのですが、その時から、ほぼ20年、この路線の顔として走り続けてきたわけです。テッチャン的には、「お疲れ様!!」と声をかけてあげたいわけです。ちなみに、関西では草津線や湖西線でまだその姿を見ることが出来そうです。



嵯峨野線複線化の記念入場券の台紙
(写真、左：223系、右：221系)

それにしてもカボチャ電車とは、良いネーミングだと思いませんか。そう言えば、色々なユニークな愛称を持つ列車も増えました。

「たま電車」や「いちご電車」は非常に有名ですね。私の故郷である九州には「ゆふいんの森」や「海幸山幸」「いさぶろ・しんぺい」などの愛称を持つ列車も走っています。

ちょっと話はそれますが、九州の列車の内装デザインのレベルは、日本一、いや、世界に



きんきょう

も誇れると個人的に思っています。「ワクワク」「ドキドキ」するデザインが提供されています。九州にお越しの際は是非！！

時代の変化とともに、列車に求められる機能も変化してきている

のだろうなと思います。安全・安心はもちろんのこと、快適性や、「ワクワク」「ドキドキ」という、人間の感覚（感性）に響く要素も重要になってきているのだと思います。

まちづくりにも、色々な分野がありますが、人々が「ワクワク」「ドキドキ」するような展開を生み出すことは、考えなくてはならない要素の1つと言えるかもしれません。

新・人 紹・介



子どもとまちと私

京都事務所 浅田麻記子

4月より京都事務所に入所しました浅田麻記子です。私のほとんどの考え・行動の根本にあるのは「ひとが好き！」、その中でも特に「子どもが好き！」というものです。私がいいなあと思うのは、子どもたちの声がいつも聞こえ、親に怒られるまで元気に遊ぶ子どもたちのいるまちの風景です。現在、そのようなまちは少なくなっているような気がします。子どもたちが元気に遊び、学び、愛着を持てるようなまちはどんなまちなのだろうか。まだ私の中にはっきりとした

答えはありません。これから様々なひとに出会い、それぞれのひとから学び、この答えがいつか出ればいいなあと思っています。そのためにも積極的にいろんなところへ行き、自分の肌で感じていきたいと思っています。私は自分で体験しないとどうも信じられない性質なので、とにかく現場に行かせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。



まちの個性と魅力

大阪事務所 依藤光代

高校生のころにはじめて、一人で東海道新幹線に乗りました。大阪から東京の間にあるまちの、それぞれの特徴が移り変わっていく様子を見ることができる、と淡く期待して乗車したのですが、私の目には車窓からの風景が大きな変化のないようなものに映りました。この苦い記憶が、日本の「まち」に対して初めて抱いた思いです。

大学に入ってからは、海外のまちを見て歩きました。印象深かったのはそれぞれの土地で、気候への対応や信仰による習慣が、まちの形状や様式、人々の住まい方に表れていたことです。例えばモロッコの都

市フェズでは、強い日差しを避けるため街路は細く、外敵の侵入を防ぐため迷路状に入り組んでいます。イスラム教のモスクからは祈りの言葉がまち中に響き渡り、そして暮らす人々の緊密な関係がそここで垣間見えました。



ただ便利であるだけではない、それぞれの歴史風土が醸し出す個性が、日本のまちでもより感じられるようになればいいと思います、そのお役に立つことができればと考えています。どうぞよろしく願いします。

MEDIA WATCH

「甲子園ホテル物語—西の
帝国ホテルとフランク・
ロイド・ライト—」
～創造性は居心地のよい場所を
求める～

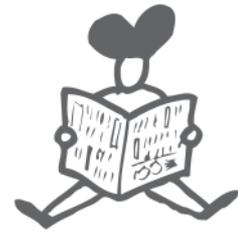
三宅正弘（武庫川女子大学准教授）著
東方出版発行

旧甲子園ホテルは、阪神間の中央、西宮市内の武庫川のほとりに位置し、現在は武庫川女子大学甲子園会館となっている。建築界のみならず地域でも有名で、ご存じの方も多と思うが、内部の様子まで、ましてその生き立ちまでご存じの方は少ないだろう。

甲子園ホテルは昭和5年（1930）に開業したが、戦争のためわずか14年で閉鎖。戦後の接収を経て、昭和40年に地元の武庫川学院に払い下げられ、幸運にも生き残った。

本書は、ホテルとしては短命であったが、今なお人々を魅了し光を放ち続ける甲子園ホテルを、著者特有の様々な視点から研究し、一つの物語として構成したものである。

甲子園ホテルといえば「フランク・ロイド・ライト」が連想されるが、実際はライトの高弟子「遠藤新」の設計によるものである。ライト式と呼ばれる特徴的な様式から、ライトによる帝国ホテルと並び称され「西の帝国ホテル」とも呼ばれてきた。その先入観から、本書についても建築論を想定しがちだが、目次の最初は意外にも「チョコレートと野球」である。意表を



紹介者／大阪事務所 岡本 壮平

つく展開に「またやられたか」と思う。さらにホテルの料理、洋菓子、料理人やホテルマンの人生模様までも紐解いていく。幅広い展開にとまどいつつ、著者の『ホテルの心臓は厨房だ』という言葉に視界がクリアになる。これは現代にも通じる「ホテル学」なのだ。もちろん建築論もある。著者の十八番である石文化の視点からもアプローチされており、甲子園ホテルを特長づける素材でもあるので、改めて建築を深く理解することができる。

これらを、戦前からの豊富な資料をバックボーンに、貴重な写真も多用しつつ、一連の読みやすい物語として仕立てている。個人的感覚で恐縮だが、例えるなら、甲子園ホテルというジグソーパズルを、周りから順にピースをはめ込んでいき全体像が見えてくる感じ、とでも言おうか。実物を見れば最後のピースがピタッとはまるような感覚、いつしか甲子園ホテルのファンに引き込んでしまうような、そんな感覚を覚える本である。実物を見て最後のピースをはめ込む際には、是非本人にガイド役を依頼したいものである（写真は弊社で撮影）。





土地に刻まれた記憶を確認する試み

大阪事務所／坂井 信行

JR 福知山線の事故から5年目の4月25日を迎えるにあたり、事故の風化防止を願って沿線を歩くメモリアルウォークが開催されました。4月24日、JR 塚口駅にほど近い上坂部西公園に集まった50名ほどの参加者は、途中、事故の現場に立ち寄ってJR 尼崎駅までの約4キロメートルのコースを約2時間かけて歩きました。

「未だに電車に乗れない人も歩くことならできるのではないかと、沿線をみんなと一緒に歩くことで一歩でも先に進むことができれば」

今回の試みは、地下鉄サリン事件の被害者を支援しているグループの取り組みを参考に実施されたものです。主催したのは事故の負傷者やその家族、支援者らでつくるグループで、今回が初めての取り組みですが、今後も恒例のイベントに育てていきたいとの思いがあります。

事故があった4月25日が近くなると沿線の地域では様々な取り組みが行われ、独特の雰囲気になります。事故の現場には献花に訪れる人も多くなり、あたりはにわかに騒がしくなります。現場となったマンションはJR西日本による買収が終わり、現在も当時のままの状態

されています。今後どのようにするのが決まっていなかったためです。マンションの近隣は、線路の東側には工場や卸売り市場などが立地し、線路の西側は住宅と工場などが混在したこの辺りならどこにでも見かける市街地です。事故によってこの場所には特別な記憶が刻み込まれることとなりました。

現場のマンションから南に300メートルほど行ったところに畑があります。畑のオーナーは4月25日が近づくと菜の花で「命」の文字が浮かび上がるよう、手入れをされています。この時期、この場所でしか見られない風景です。事故の現場に刻み込まれた記憶は風に乗って飛んでいくたんぽぽの綿毛のように周囲に広がり、その土地に新しい意味を付け加えていきます。メモリアルウォークは、こうした意味をみんなで発見し、読み解いていく行為でもあります。

さて、多くの人々によって様々な意味付けがなされる事故の現場。日常の何気ない風景の中にどのように記憶を継承していけばよいのか。この難問には様々な人々の思いと知恵を集めないと立ち向かうことができません。



メモリアルウォークの様子



現場近くの「命」の菜の花畑



日常の風景の中にある現場マンション

アルパック(株)地域計画建築研究所

<http://www.arpak.co.jp> E-mail info@arpak.co.jp

本 社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入立売西町 82

大阪事務所 〒540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F

名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F

東京事務所 〒160-0001 東京都新宿区片町 1-6 萩原ビル 3F

九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478

TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760

TEL(03)3226-9133 FAX(03)3226-9560